

描く、そして現れる — 画家が彫刻を作るとき



図版 1. サイ・トゥオンブリー
手前：《無題》1990年 ブロンズ 奥：《無題》1968年 家庭用塗料、クレヨン、カンヴァス
DIC川村記念美術館 © Cy Twombly Foundation, 2019

20世紀以降のすぐれた画家たちの中には、ジャンルを横断し、斬新な立体作品を制作した作家たちがいました。従来の方法にとらわれない画家ならではの視点が、20世紀の彫刻の歴史を更新したともいえます。本展では、画家の平面と立体の作品を並べて展覧し、国内外の25人の画家たちが、カンヴァスから踏み出して試みた実験を約80点の作品でご紹介します。

会 期	2019年9月14日(土) - 12月8日(日)
開館時間	9:30-17:00 (入館は16:30まで)
休館日	月曜(ただし9/16、9/23、10/14、11/4は開館)、9/17(火)、9/24(火)、10/15(火)、11/5(火)
入館料	一般1,300円、学生・65歳以上1,100円、小中学生・高校生600円
会 場	DIC川村記念美術館(千葉県佐倉市坂戸631)
電 話	掲載用=050-5541-8600(ハローダイヤル) 取材用=043-498-2672(事務所直通)
主 催	DIC株式会社
協 力	株式会社キュレーターズ
後 援	千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

概要

画家が彫刻を作る、とは特別なことでしょうか？

歴史を遡れば、ルネッサンス期には有名なレオナルド・ダ・ヴィンチやその師のアンドレア・デル・ヴェロッキオら、多くの「画家であり、彫刻家でもある芸術家」たちの名前が、「芸術家列伝」（ジョルジョ・ヴァザーリ著）に記されています。とはいえ、その後は分業化が進み、彫刻家が常にデッサンをし、時に絵や版画を残したのに比べると、画家が彫刻を本格的に制作した例は大変少なくなります。

近代になると、印象派の幾人かの画家たちがすぐれた彫刻を制作したことは知られています。エドガー・ドガ、オーギュスト・ルノワール、そして同時代のオノレ・ドーミエらが熱心に彫刻を制作しています。彼らは自分の絵の中にいる人物たちを立体にして現したのでした。ポール・ゴーギャンもタヒチの民芸品に学んだ注目すべき彫刻を制作しました。

そして 20 世紀、前衛画家たちは、絵の中で行いつつある様々な造形の実験を、3D 化しようと試み始めます。自由に描きだせる絵の世界から踏み出して、重力ある空間のなか、材料を選び、筆を道具に持ち替えて、画家はなぜ彫刻を作るのか。それらは彼らの絵とどのような関係を結んでいるのか。それらは単なる素人の彫刻なのか、それとも？

本展では描くなかから生み出された、20 世紀前衛画家たちの彫刻制作の一端をご覧くださいます。画家の絵と彫刻を並べて見ると、彼らの意図が伝わってくるはずですよ。

各章のご紹介

会期中に展示替えがあります

1. 絵画の実験から彫刻へ

出品作家：

パブロ・ピカソ

ジョアン・ミロ

ルネ・マグリット

クルト・シュヴィッターズ

ジャコモ・バッラ

岡本太郎

ウィレム・デ・クーニング

サイ・トゥオンブリー

パブロ・ピカソが立体物を平面上に描き出す新しい方法、キュビズムに取り組んだとき。未来派の代表的な画家のひとり、ジャコモ・バッラが現代社会のスピード感をどう描き表すかを追及していたとき。

ルネ・マグリットが現実にはあり得ない状況を絵の中に出現させて、シュルレアリスムならではの不思議な世界を追及していたとき —— 彼らは絵の中で自分が繰り広げた描写の実験を、彫刻にしました。

自然主義の描写とは全く異なる、前衛画家たちの新奇なヴィジョンは、彫刻に作り直され現実空間に置かれて、実体になります。

2. 反絵画としてのオブジェ、あるいは彫刻

出品作家：

マルセル・デュシャン
リチャード・ハミルトン
ピエロ・マンゾーニ
ジャスパー・ジョーンズ
菊畑茂久馬
高松次郎
山口勝弘

絵画と呼ばれるジャンルを疑い、これまで「絵」だとされてきたものを解体しようとする画家たちが、1960年頃から現れます。何かを絵に描くよりも前に、絵とは何なのか考え直そうとする態度です。

ジャスパー・ジョーンズは、絵を平たい物体として見直しました。彼が一枚の布である旗を画布に描いて見せるとき、「絵と絵でないものの関係」は揺らぎ始めます。

東京で個展を開催するなど、ジョーンズは日本の作家たちにも大きな影響を与えました。菊畑茂久馬はその課題を受け継ぎ、「絵と絵でないものの関係」、すなわち絵画性と物質性の関係を究極的なかたちで凝縮し〈天動説〉シリーズに到達しています。

早世したピエロ・マンゾーニの「絵画＝物体観」は飛びぬけていました。彼が直線をひき続け、線を長さで測って紙筒に入れてサインするとき、描画はこれまでとは全く異なる、特殊なオブジェとして見えてくるでしょう。

3. ポップアートとミニマルアート：絵画空間の実体化

出品作家：

草間彌生
クレス・オルデンバーグ
ロイ・リキテンstein
ジム・ダイン
フランク・ステラ
ドナルド・ジャッド
ソル・ルウィット

ポップアートの作家たちは、量産品の匿名性をもつイメージを採り上げ、描くだけでなく立体化しました。虚構と反復のイメージは実体化され存在感を得て、実体と虚像の境界を揺るがせます。

草間彌生のソフトスカルプチュアの素材は、まずはカンヴァスから始まりました。モノクロームに塗られ、自立せず椅子など日用品の枠に群生するそれらは、作家が当時制作していたネットペインティングの延長にあるといえます。

絵画空間をいち早く実体物として表そうとしたのは、フランク・ステラやドナルド・ジャッドでした。独自の理論を構築し、物体としての絵画を目指したステラは、描かれた図像と画面の形態を一致させるシェイプト・カンヴァスを考案しました。

4. 絵画の向こう側：映像と空間

出品作家：

榎倉康二

中西夏之

五十嵐英之

ミニマリズム以後、「画家の彫刻」は、現実空間に展開するインスタレーションのスタイルをとることが多くなりました。画家の彫刻は、1980年代に曲がり角を迎えたのかもしれませんが。

ここでは、いわゆる彫刻以外の方法で画布を遠くまで踏みこえた画家を紹介します。写真を契機とした彼らの問題は、「写真を絵にする」ということではありませんでした。中西夏之は、ドローイングを撮影してデジタル分解し、拡大する過程で、元々はなかった色彩を出現させて見せました。それを中西は絵の「拡散」と呼び、絵が言わば遠く離れて別の空間を獲得するイメージでとらえました。絵とは何でありうるか、それを考える方法はより多様に広がっていきます。

関連プログラム

詳細とご予約方法は[随時ホームページにてお知らせいたします。](#)

■ ゲストによるトークイベント（要予約）

① 小林正人（画家）× 奈良美智（画家・彫刻家）

「画家だから、木杵を踏み出す、踏みこえる」

10月12日（土）

② 長島有里枝（写真家・作家）× 石田尚志（画家・映像作家）

「写す、そして現れる—空間のなかへ」

11月16日（土）

■ 学芸員によるギャラリートーク

9月14日（土）、11月30日（土） 14:00-15:00

■ ガイドスタッフによる定時ツアー

上記イベント開催日を除く毎日 14:00-15:00

■ ミュージウムコンサート（要予約）

蓮沼執太（音楽家、アーティスト）

10月26日（土） 17:45 開場、18:00 開演



図版 2.
ジャコモ・パツラ
《“二重奏” バル・ティク・タクのパレリーナ》
1920/22年 ぶくやま美術館



図版 3.
ジャコモ・パツラ 《輪を持つ女の子》 1915年
ぶくやま美術館



図版 4.
岡本太郎 《エクセホモ》 1963年
川崎市岡本太郎美術館



図版 5.
岡本太郎 《愛》 1961年
川崎市岡本太郎美術館



図版 6.
ピエロ・マンゾーニ 《無色》 1958/59年
豊田市美術館



図版 7.
ピエロ・マンゾーニ 《アクローム》 1961年
ぶくやま美術館

図版掲載をご希望の方へ

- * 掲載図版が1点のみの場合は、**図版 1**をお送りします。
- * 作家名・タイトル・制作年・所蔵者名および著作権クレジットは必ず明記してください。
- * 掲載情報の事実確認をさせていただくため、発行前にPDFでレイアウトをお送りください。
- * 紙媒体は掲載物送付（掲載ページのPDF可）、ウェブ媒体は公開用掲載ページのURL通知をお願いします。
- * このページを出力しファックスしていただくか、Eメールで下記の情報をお知らせください。

お名前

ご所属

電話番号

Eメール

媒体名

掲載号

発行予定日

コーナータイトル

執筆者名（記名原稿の場合）

図版 No.

図版送付〆切日（対応できない場合もあります）

お問い合わせ・追加資料リクエスト先

DIC 川村記念美術館

TEL 043-498-2672（取材用）※記事掲載用は 050-5541-8600（ハローダイヤル）

FAX 043-498-2139

広報担当：林 里絵子 press@kawamura-museum.com

学芸担当：光田 由里